

# 那珂川・博多川での都心部かわまちづくり

福岡市道路下水道局計画部 那珂川・樋井川床上浸水対策推進室 主査 児玉 豊

## 1. はじめに

福岡市は、北は玄界灘に面し、海の中道と糸島半島によって仕切られた博多湾を臨み、南は背振山地、東は三郡山地に囲まれた半月型の福岡平野に位置している。

那珂川は、その源を背振山に発し、市の中心部を南から北へ貫流し博多湾に注ぐ、幹線流路延長35km、流域面積124km<sup>2</sup>の二級河川である。

その流れは古くから農業用水などに利用され、博多のまちを育み、その発展に大きく寄与してきた。さらに、近年になってからは、工業用水や上水道の水源として、福岡市の発展を支える大きな役割を果たしている川である。

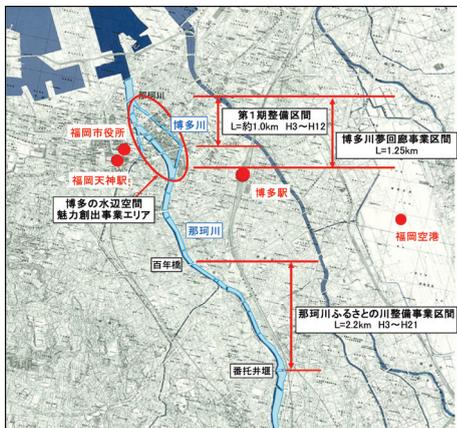
また、博多川は、那珂川の下流部において分流し、再び合流する延長1.25kmの準用河川である。川の右岸には大型商業施設や商店街がある川端地区、左岸には文字通り那珂川との中洲となっている歓楽街・中洲地区があり、その中を流れる川として長年人々に親しまれてきた。

## 2. 都心部でのかわまちづくり

福岡市の都心部である天神、中洲地区を流れる那珂川・博多川は、都市における貴重な水と緑のオープンスペースであり、「那珂川ふるさとの川整備事業」及び「博多川夢回廊事業」においては、それぞれの地域の特性を生かしながら水辺とまちづくりを一体的に整備してきた。

また、「博多の水辺空間魅力創出事業」においては、水辺を活かしたにぎわいの創出、川を活用した魅力の充実などを推進してきた。

以下にそれらの事業について記述する。



事業箇所位置図

## 3. 那珂川ふるさとの川整備事業

那珂川リバーサイド地区は、都心である博多駅に近く利便性と環境の優れた住宅地としての可能性のある地区であったが、道路等の都市基盤の整備の遅れ、工場と住宅の混在、JR鹿児島本線や那珂川による地域分断等により市街地整備が遅れた地区であった。

そのため、新しいまちづくりとなる那珂川リバーサイド地区住宅市街地整備総合支援事業「りぼんシティオ那珂川」により、工場跡地を利用した住宅建設や区域内における道路・公園等の公共施設整備が計画され、区域内を貫流する那珂川の水辺を活用し、快適な都市空間と居住環境が一体となったまちづくりを目指すこととなった。

河川整備については、河川改修にあわせた良好な水辺空間を形成する「那珂川ふるさとの川整備事業」を進めることとし、沿川の市街地整備と連携して、平成3年度から21年度まで河川改修事業を行い、多目的広場であるリバーフロントプレイス、散策・ジョギングロード等の整備を行った。



那珂川（リバーフロントプレイス）

## ■那珂川の利用状況

那珂川の河川利用については、様々な利用形態が見られる。

ゴムボートで川を下る「那珂川川下り大会」やカーヌー教室、地元の美野島まちづくり協議会により約1万個の灯明を配する美野島灯明納涼祭、上流の那珂川町との共同事業としてクイズやゲームを楽しみながら歩くウォーキング大会など、地域住民等による各種イベントが活発に行われている。

## 4. 博多川夢回廊事業

博多川は夜ともなれば中洲のネオンサインに彩られ、川面に映る夜景は都市景観を演出しているもの

の、昭和40、50年頃は周辺が発展する一方で川の汚濁が進み、さらに、護岸の老朽化や河川上に栈橋形式の駐車場があることなど、景観上の問題や親水性の欠如など様々な問題を抱えた無味乾燥な都市河川となっていた。

そのような中で、川沿いでは、下川端・住吉地区の市街地再開発事業など活発なまちづくりが進められ、博多川の整備についても、関係機関などから種々の提案要望がなされていた。

そのため、都心に残された貴重な親水空間であった博多川の蘇生に努めるとともに、これを生かしながら多くの市民が集い、憩う、水と緑のオアシス空間として整備し、うるおいと活力のあるまちづくりをめざす「博多川夢回廊整備構想」を策定し、沿川の再開発事業と並行し、第一期事業として平成3年度から12年度までに環境護岸や川端ぜんざい広場の整備などを実施した。



博多川（博多リバーライン付近）

この結果、親水歩道や親水階段により、市民が身近に水辺に親しむことができるようになっただけでなく、以前は川に背を向けていた川沿いの商店街にも、川側に大きな窓や出入り口を設ける店が徐々に増え、博多川のにぎわいづくりの一翼を担っている。

### ■川端ぜんざい広場

博多川右岸沿いで、大正初期より永く庶民の味として親しまれてきた「川端ぜんざい」は、昭和60年に閉店となり、後継者が居ないため土地は国のものになった。

しかし、この名物ぜんざいを復活させたいとの商店街の熱意により、福岡市が土地の払い下げを受け、川端商店街と博多川とを結ぶ河川管理用通路の機能をもったポケットパークとして「川端ぜんざい広場」の整備を行ったものである。広場には山笠が常設されており、土・日や地域のイベント開催時にぜんざいが販売されている。

## 5. 博多の水辺空間魅力創出事業

「博多川夢回廊整備事業」で環境護岸や遊歩道が整備

されたが、市民にはまだ十分な活用はされていなかった。

そのため、多くの人々に水辺空間の魅力を再認識してもらうこと、地域と行政との共働事業を通じてこれからの水辺利用の道筋を検討・提案すること、水辺空間の魅力向上に向けた活動の輪を広げていくことを目的として事業を始めた。

具体的には、地域関係者・NPO・行政において「博多の水辺協議会準備会」を発足し、同準備会主催による社会実験として「リバーピクニック」を開催し、納涼舞台、水上レストランの設置や、那珂川河畔でのオープンカフェ、博多川での花嫁舟（花嫁花婿がホテルそばから挙式を行う櫛田神社近くまで舟で移動する）、河川遊覧や釣り大会、水辺の一斉清掃などを実施した。

### ■オープンカフェ

オープンカフェは、河川敷に隣接したホテルの民有地と地先河岸緑地とを一体利用する地先利用型で行っており、平成24年4月に河川管理者による区域指定を受け、天神地区のエリアマネジメント団体が施設占有者となって実施している。



博多川（船乗り込み）

その他、博多川では、「博多どんたく港まつり」や「中洲まつり」の一環として水上舞台の設置、「飢人地蔵夏祭り」の灯笼流しや、毎年、6月に博多座で公演される大歌舞伎に向けて、役者が舟に乗ってお披露目しながら観客の来場を呼びかける「船乗り込み」など、さまざまなイベントが行われている。

## 6. おわりに

那珂川・博多川のかわまちづくりにあたっては、それぞれが持つ環境や地域の特性に十分配慮しながら、うるおいや親しみのある水辺環境の整備を行うとともに、河川の活用にあたっては住民が河川に対し興味や親しみをいだくよう住民参加型の手法を活用し、様々なイベント活動等を行ってきた。

今後も、市民が川に親しむような“かわまちづくり”を、地元の協議会、組織と共働し取り組みたいと考えている。